

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から 明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1 調査日 令和8年4月14日（火）

2 調査対象 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

3 調査内容

教科に関する調査

→ 調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～5学年> 国語、社会、算数、理科

<第6学年> 国語、社会、算数、理科、英語

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

学校名 第一日野小学校

1 各教科の定着状況についての概要

「書くこと」の領域では、区の平均と同程度か下回っている学年があった。特に学年によって、「文章を書く」と「漢字を書く」において課題があることが伺える。タブレット端末が普及したことにより、単語や漢字の意味を十分に理解しないまま書く児童が増えたり、鉛筆等で実際に文字を書く機会が減ったりしたことが原因であると考えられる。学校全体としてモジュールや授業内で、条件作文や漢字を使用した短文作りなど「書くこと」を取り入れた指導を行い、また語彙力を増やすために国語辞典や漢字辞典の使用や読書の推進が必要である。

2 具体的な課題・課題の原因として考えられること・課題解決の方策

学年	具体的な課題	課題の原因として考えられること	課題解決の方策
2年	【話を聞き取る】 - 大切なことを落とさないように聞く力に課題がある。 【物語を読み取る】 - 場面の様子や登場人物の行動など、話の大体を捉え切れていない。	- 何が大切なことなのか考えて聞く経験が不十分である。 - 物語文の構成や登場人物について表す表現に着目する等の知識技能が十分に習得できていない。	- 指示を出した後、何が大切だったか全体で振り返る活動を日常の学習で取り入れる。 - 物語文の学習の際、読み取りのキーワードになる言葉や部分に印をつけ、着目できるようにする。
3年	【文章を書く】 - 文と文のつながりを考えず、思いついたことを順番に書いてしまう。 「そして」「しかし」「だから」などの接続語を適切に使うことが難しい。 - 一つの文に多くの内容を入れ、文章が長くなってしまふ。	- 書く前に「何を伝えたいか」を整理する習慣が身に付いていない。 - 接続語を「文章をつなぐ言葉」として覚えているだけで、意味を理解していない。 - 自分の考えを整理してから書くことが難しい。	- 書く前に「はじめ・中・おわり」を簡単にメモする習慣付けをする。 - 前後の文の意味に注目させ、接続語の意味を考えさせる指導をする。 - 長い文を提示し、「どこで文を分けると分かりやすいか」を考えさせる。
4年	【文章を書く】 - 調べたことをもとに文章を書くことにおいて、構成や展開を考えることに課題がある。 【物語を読み取る】 - 物語の内容を読み取ることに、叙述をもとに登場人物の様子を捉えることに課題がある。	- 書く機会の減少により、文章の構成を意識することや段落ごとのまとまりを考える経験が少ない。 - 直接的な表現ではなく、前後のやり取りや情景描写などから登場人物の様子や心情を読み取る経験が少ない。	- 文章を書く機会や文章構成を考える時間を確保し、条件付きの作文などを書く練習を通して書く力を伸ばしていく。 - 物語文の学習の中で、様子や心情を表す様々な表現に触れ、語彙を増やし、読解力を高める。
5年	【言葉の学習】 - 連体修飾語と連用修飾語の違いについての理解に課題がある。 【漢字を書く】 - 同音異義語の漢字に課題がある。	- 修飾語の意味や問題文を正しく理解していない。また修飾語に関する問題に慣れていない。 「さめる」という読み方のみで意味を考えずに漢字を書いている児童が多い。	- 修飾語について復習をしたり、問題文を正しく読むように印を付けたりするように日常的に取り入れる。 - 既習漢字の復習をし、その都度行う。また漢字以外にも文をよく読むように指導し、意味をしっかり把握して書く活動を行う。
6年	【漢字を書く】 - 既習漢字が正しく書けない。 【言葉の学習】 - 文章中の中で、文脈に合った正しい漢字を理解していない。 【説明文の内容の読み取り】 - 目的に応じた情報整理ができていない。	- 普段から「書く」経験が少ない。(タブレット入力に慣れている)読みはできる。 - 問題文にある言葉の意味を理解していない。	- 板書をノートに移す際や、宿題など、意識的に漢字を書く習慣を身に付ける。漢字の読み書きの定着や表現力向上を目指す。 - 読書をして語彙力を身に付ける。辞書で言葉を調べる活動を取り入れ、語彙を増やしていく。

1 各教科の定着状況についての概要

おおむね目標値を上回っている問題が多いが、4年生と6年生は「活用」の領域で区平均を下回っている。これは、どの学年も資料からの読み取りの問題に課題が見られるからだと考えられる。表やグラフは算数科で学習しているが、そのグラフからどのようなことが読み取れるのかを結び付けて考える力が弱い。

6年生では、「日本の主な漁港と水揚げ量」についての資料の読み取り問題が目標値を下回っている。各地の水産地の特色（漁獲量）と地理が結びついていないと考える。日本の地域の特徴（地形や気候など）と都道府県を結び付けて学習を行っていく必要がある。

2 具体的な課題・課題の原因として考えられること・課題解決の方策

学年	具体的な課題	課題の原因として考えられること	課題解決の方策
4年	・四方位を理解していない。 ・仕事内容から「消防団」という言葉が想起できなかった。 ・資料から分かることを自分の言葉で表現することが苦手な児童がいる。	・東西南北の理解が不十分であり、誤って記憶している。 ・学習の中で学んだ言葉が定着していない。 ・資料を読み取る力が十分でない。また、考えたことを自分で文にすることが苦手である。	・中学年は2学期から教室に東西南北の表示を作り、四方位を意識して生活できるようにする。 ・授業の始めにクイズなどで前時の学習をおさらいしたり、学期末に復習したりする。 ・授業の中で、資料から分かることを言葉で表現する活動を2学期以降多く取り入れる。考えたことを文にする練習は他教科でも行う。
5年	・「自然災害からくらしを守る」では、地震に備えた地域の取組を考える問題において課題が見られた。 ・「先人の働き」では、年表や資料の読み取りについて課題が見られた。	・前後の文章と選択肢を見て、文章のつながりを考える力が不十分である。 ・提示された複数の資料それぞれの概要を十分に読み取れていない。	・文章にまとめる際に、前後の文章とのつながりがあるか、問いに対して適した解答になっているか、見直す習慣をつけていく。 ・複数の資料を提示し、それぞれの資料が何を表したもののなのか短い言葉でまとめる活動を取り入れる。
6年	・目標値を下回っている問題は、「日本の水産業」についての問題であるが、資料からの読み取りについて課題が見られた。 ・表現の部分において、理由付けを文章で表現することに課題がある。	・特定の地域の水産業の特徴と資料が結びついていない。 ・なぜその答えになったのかを、文章で書き表す力（思考力）が定着をしていない。	・資料を提示し、その資料からどんなことが分かるのかを、文章で表現させる。様々なグラフや図表の読み取りを行う。 ・ICTの効果的な活用も必要であるが、意図的に文章を書く機会を設定し、児童同士が発表する機会を設ける。

1 各教科の定着状況についての概要

算数について、2年生は、「図形」領域が全国および区平均を下回り、その他の領域については全国および区平均を上回った。3年生は、全領域が全国および区平均を下回った。4年生は、「数と計算」領域について全国平均を上回ったが区平均を下回り、その他の領域は全国および区平均を上回った。5年生は、全領域が全国および区平均を上回った。6年生は、「数と計算」領域について全国平均を上回ったが区平均を下回り、その他の領域は全国および区平均を上回った。なお、目標値との比較でみると、全学年をとおして、「図形」領域について、目標値を上回っているものの僅差であるなど、その他の領域に比べて課題があることがうかがえる。

2 具体的な課題・課題の原因として考えられること・課題解決の方策

学年	具体的な課題	課題の原因として考えられること	課題解決の方策
2年	- 立体の面を写し取って描いた絵を見て、使っている立体を見付けることに課題が見られた。 - 使われている色板の枚数を正しく数えることに課題が見られた。	- 問題文を正確に読み取ることができずに無回答となり、正答率が下がってしまった。 - 正しく線を引いて色板の形を表すことができない児童が多かった。	- 問題文を最後まで正しく読み取り、聞かれていることが何かを理解できるように練習問題などを繰り返す。 - 既習内容を定期的に復習して、確実に身に付くようにする。
3年	「数と計算」では、繰り上がりが2回ある計算や文章問題で課題が見られた。 「図形」では、作図や立体物の位置関係把握に課題が見られた。 「測定」では、かさや長さの単位換算の関係の理解に課題が見られた。	- 練習問題で複雑な計算をする経験が少なかった。 - 具体物を用いた学習から線や点の位置関係の理解が不十分であった。 - 単位変換の理解が未定着である。問題を解く経験が少ない。	- 授業時間や朝学習の時間に練習問題を多く解く機会を設ける。 - 実際に具体物に触れることで、頭の中でイメージできるようにする。 - 練習問題に取り組んだり、生活の中でも話題に挙げたりして、触れる機会を多くする。
4年	- 二等辺三角形を正確に作図することに課題が見られた。 - 直径と半径の関係をを用いて問題を解き、その理由を筋道立てて説明することに課題が見られた。	- 二等辺三角形の作図方法が定着していない。 - 直径の関係をを用いて、直径から半径を求める等、既習事項を活用して条件を逆算することに課題がある。	- 作図手順の掲示やプリント学習を繰り返し行い、作図方法を定着させる。 - 説明文の型を用意し、それを用いて段階的に定着させる。宿題や授業の初めの5分間等で、継続的に取り組ませる。
5年	- 身近にあるもののおよその面積を推測することに課題が見られた。 - 図形では、平行四辺形の作図の正答率が低く、作図に課題が見られた。	「1 cm²」「1 m²」などの面積の単位について、実際の大きさの感覚が十分に身に付いていない。 - 平行四辺形の性質と、定規・コンパス・分度器などの作図用具の使い方が結び付いていない。	「1 m²」の大きさを実際に作ったり、教室内のものと比較したりする活動を取り入れ、量感を養う。 - 作図の操作と図形の性質を関連付ける活動を繰り返し行う。
6年	「数と計算」では、小数同士の除法の正答率が低く、課題が見られた。 「図形」では、合同な三角形の作図の正答率が低く、作図に課題が見られた。 - 単位量あたりの大きさでは、面積・人数から、混み具合を求める問題の正答率が低く、単位量あたりの計算に課題が見られた。	- 計算ミスや小数点の打ち間違いが原因として考えられる。 - 定規やコンパスによる長さの測り間違いや、作図の仕方を理解できていない。 「単位量あたり」の意味を理解しておらず、割合を求める基礎が十分でない。	- プリントやタブレット教材を活用し、復習に取り組み正しく計算ができるようにする。 - 小学校で学習した図形の性質を定着させ、プリントを中心に作図ができるようにする。 「単位量あたり」の意味を理解し、プリントやタブレット教材を活用し、演習問題に取り組み、正しく立式し、答えを求められるようにする。

1 各教科の定着状況についての概要

5年生は「物質・エネルギー」「生命・地球」どちらの領域も区平均・目標値を上回っているものの、上位層が下位層を引っ張る形で成績を支えているため、学年全体に概ね定着しているとは言い難い。6年生は、校内と区の平均正答率の割合の違いは昨年度とほぼ同等であり、全項目で目標値は上回っていることから理科の定着状況は昨年度と同等と考えられる。3学年ともに大体の項目で区・全国の平均を上回っていたので、課題となる単元を理科の時間を使って復習し、さらなる定着を図る。次年度も区・全国の平均を上回ることを目指す。

2 具体的な課題・課題の原因として考えられること・課題解決の方策

学年	具体的な課題	課題の原因として考えられること	課題解決の方策
4年	・「こん虫の育ち方」「こん虫のからだのつくり」の正答率が低い。 ・実験に関する問題で、実験方法や器具について正しく理解できていない。	・実際に昆虫を観察したり、育てたりする活動が十分にできておらず、写真や動画での学習になったことで、児童の理解が深まらなかった。 ・授業で取り扱ったものと問題の実験方法や器具が異なったため、正しく解答することができなかった。	・こん虫を学級で育てる活動ができるだけ取り入れる。スモールステップで知識、理解の反復練習を行う。 ・授業で取り扱った実験活動だけでなく、類似した実験方法や、日常生活で活用されている事例について、動画教材などを活用して取り入れていく。
5年	・「観察活動」への取組が目標値を大きく下回っている。 ・「自然の中の水」についての正答率が低い。	・観察活動では、目的意識をもたず取り組んでいる。「知識・技能」は、黒板や教科書に書かれていることを理解できないままの児童がいること、学習のまとめを書き写すだけで終わってしまっている児童がいることが考えられる。 ・生活経験の乏しさから、生活に関連付けて考察することが難しい児童がいることが推測できる。	・観察、実験をさせる場合、目的意識をもたせ、必要な視点を意識させる。実験結果や観察内容を考察する際に、自分の考えや既習事項と関連付けて学びをまとめる習慣を身に付けさせる。 ・他者との交流で意見交換に取り組みさせることで、興味を生み、理解を深め、学びの充実を図っていくことが重要であると考えられる。
6年	・「観察活動」に関わる「魚のたんじょう」「人のたんじょう」に課題が見られる。 ・「ふりこのきまり」の単元の正答率が低い。	・観察活動におけるめあてを十分に理解できておらず、考察に結び付いていない。 ・「実験活動」への取組の後に、考察するための話し合いなど、実験におけるめあてについての認識が弱く、起きた結果への考察が不十分である。また、知識を日常生活などに活用することをしていない。	・予想や実験で起きた事象と結果の因果関係を理解するために、友達との話し合い、深め合いを丁寧に行う。 ・授業内で実験計画を考える経験を積ませる。また、考察する時間をより多く確保し、理科に対する興味、関心を深めていく。

1 各教科の定着状況についての概要

全ての領域で全国平均、区平均を上回っており、英語の基礎基本が概ね定着している。毎回の授業で複数のアルファベットを聞き取り、書く活動に取り組んでいる成果もあり、「書くこと」の正答率も9割近かった。一方で、アルファベットを正しく書けない児童、正しく聞き取れていない児童も見られた。低学年の段階からアルファベットに触れさせ、中学年ではなぞり書きなど、書く活動に力を入れていく必要がある。

2 具体的な課題・課題の原因として考えられること・課題解決の方策

学年	具体的な課題	課題の原因として考えられること	課題解決の方策
6年	・音声を聞いて内容を理解する力に課題がある。 ・英文を読んで内容を理解することが十分にできていない。 ・アルファベットや単語を正しく書くことに課題がある。	・英語の音声を聞くことに慣れておらず、知っている単語や表現と、聞こえてくる音声を結び付けることが十分にできていない。 ・単語や基本表現は理解できていても、英文の中から必要な情報を見付けたり、文全体の意味を捉えたりすることに慣れていない。 ・英語を読んだり話したりする活動に比べ、アルファベットや既習の語句・表現を自分で書く経験が不足している。	・授業の中で、既習の単語や表現を使った音声を繰り返し聞く機会を増やし、必要な情報を聞き取る活動を取り入れる。 ・短い文を読む回数を増やし、「誰が・いつ・何を」など必要な情報を探しながら、読む活動を継続して行う。 ・アルファベットや既習の語句を書く活動を繰り返すとともに、例文を参考にしながら、自分のことを短い文で書く活動を取り入れる。